

# 日本仏教社会福祉学会 ニュースレター No.27

■平成29年 7月 6日

■発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

## CONTENTS

- 平成29年度 日本仏教社会福祉学会 第1回理事・役員会報告
- 平成29年度 日本仏教社会福祉学会 第52回学術大会案内
- 平成29年度 第1回理事・役員会 事業・委員会報告
- 平成29年度 日本社会福祉系学会連合 総会
- 仏教社会福祉入門を活用した勉強会
- 『日本仏教社会福祉学会年報』投稿論文の募集
- 事務局 編集後記

### 日本仏教社会福祉学会

発行日：平成29年 7月 6日  
 発行：日本仏教社会福祉学会  
 事務局  
 〒360-0194  
 埼玉県熊谷市万吉1700  
 立正大学 社会福祉学部内内  
 TEL：048-536-1328 (代)  
 FAX：048-536-2522 (代)  
 yoshimura@ris.ac.jp

## 平成29年度 日本仏教社会福祉学会 第1回理事・役員会報告

日時：平成29年4月28日（金）  
 15：00～17：30

場所：立正大学 品川キャンパス

出席 代表理事 清水海隆

個人理事

石川到覚	宮城洋一郎	長谷川匡俊
藤森雄介	落合崇志	野田隆生
鷺見宗信	長崎陽子	

団体理事

宮崎牧子	三友量順	小島恵昭
------	------	------

出席監事

梅原基雄	山口幸照
------	------

事務局長

吉村彰史	オブザーバー
藤田則貴	

欠席理事

委任状の提出あり

個人理事	新保佑光	栗田修司
	田宮仁	池上要靖

団体理事	渋谷 哲	長上深雪
------	------	------

名誉会員	中垣昌美
------	------

### 議事報告

事務局 開会の宣言

出席理事の確認。欠席理事の先生方からは委任状を頂いている。長谷川先生は間もなく会場に到着される。

### 1 定足数の確認

理事役員数の2分の1以上の出席。理事会規定第6条に基づき本理事会は成立している。

### 代表理事

立正大学に社会福祉学部ができた時、学会大会と代表理事を引き受けまして、その時に事務局をやらせていただいて以来ですが、今回、私の任期中にやらなければならないことは、本学会が存続していくためにはどうしたらいいのか、もう一度考えることであろうと思っております。そのために理事・監事・役員の先生方にご理解・ご協力を賜ることができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 2 議案

#### 第1号議案 会員の異動について

議長：事務局より第1号議案についておはかりいただきたい。（第1号・第2号議案については前事務局の藤森理事より説明）

#### (1) 入会会員の承認について

事務局：次の新入会員6名の申し出があった。

- ①入会会員の承認 個人会員（順不同）
- ・菅田理一（鳥取短期大学）

- ・脇野幸太郎（長崎国際大学）
- ・宮城好郎（岩手県立大学）
- ・下山久之（同朋大学）
- ・市野智行（同朋大学）
- ・泉妙子（神戸女子大学）

## （2）退会会員の承認について

**事務局**：資料の通り、7名の会員から退会の申し出があった。

### ②退会会員の承認 個人会員（順不同）

- ・浅野玄誠（同朋大学）
- ・滝村雅人（名古屋市立大学）
- ・坂野泰巨（宗教法人 西運寺）
- ・小倉常明（淑徳大学）
- ・村瀬正光（藤田保健衛生大学）
- ・近藤祐昭（四天王寺大学大学院）
- ・山本雅昭（真言宗 如願寺）

**議長**：何かご意見はございますでしょうか。

**宮城理事**：入会が認められれば大会案内を送付してもよいか。

**議長**：今までの流れでは、発表も可能。

**議長**：引き続きまして退会の7名ですが、浅野会員と滝村会員はお亡くなりになったということで、ご冥福をお祈り申し上げます。

**藤森理事**：近藤理事は、大学の退職に伴い本年度で学会を退かせていただきます、お世話になりました、ありがとうございますというお手紙をいただいております。

**議長**：それでは、入会・退会につきまして、ご審議いただきたい。

**理事**：承認

結果、個人会員 208+6-7=207名

団体会員 22団体 計229会員

## （3）会費未納会員について

**藤森理事**：未納会員の方に対してはお声を掛けさせていただいており、未納会員の数は減少している。規定では3年未納の場合、退会勧告が可能となっている（退会の案内とニュースレターは送付している）が、今後も新事務局からお声掛けいただきたい。

**議長**：新事務局でお預かりさせていただく。

**野田理事**：会費が複数年分たまっていても、継続の意志がおありの場合は、分割納付の対応は可能か。

**議長**：事務局にお伝えいただければ。また、複数年の未納には、お立場や経緯がきつとおありになるでしょうから、こちらから請求できないケースは個別に考えるしかないのでは。

**落合理事**：ご本人の意思確認をする、という

ことにしたい。

**議長**：では、他に何かご意見があれば。

**石川理事**：近藤先生ですが、理事として何年も貢献していただいた。名誉会員としてお残りいただいてもいいのでは。もう一つ、本学会を立ち上げたときには顧問という職があったが、今は誰もいないのか。

**藤森理事**：私が引き受けている範囲の中では顧問という形で名簿は処理していなかった。

**議長**：名誉会員というのは、推薦基準内規があり、推薦時75歳以上が絶対条件で、プラス代表理事もしくは理事・役員経験が3期または9年以上、となっている。一方、一般にお聞きするのは、もう現職を定年したから学会活動も全部やめる、という話です。そうすると、やっぱり年会費を下げてでもそういう先生方の位置付けを作っておくことが必要と思います。

もう一つの件、顧問は、今は職分としては存在しませんが、理事・役員会の構成員にも関わってくることで、検討が必要です。

**藤森理事**：もう10年以上前、私が学会を引き受けたころは確か水谷幸正先生、中村康隆先生、日本福祉大の鈴木宗音先生、のお三方が顧問だったのですが、その後、名誉会員をキチンとする時にその部分を整理したと思います。ただ、顧問というものが当時の規定にどの程度明記されていたかは正確には分かりません。

今、名誉会員の先生方には会費は請求しておりません。代わりに選挙権や理事になるということはないということで、線引きをさせていただいております。

**議長**：それでは、この案件は一端、事務局でお預かりするということによろしいでしょうか。つまり、65～70歳くらいで大学を定年退職されるときに学会からも退会されるのは会員活動の継続から言っても非常に惜しいことであり、そういう方達をどう位置付けるか、顧問として位置付けるか、違う形で位置付けるかも含めて、秋の理事会の時になんらかの形でご提案できればと思います。

## 第2号議案：平成28年度収支決算(案)について（平成28年度事業報告を含む）

**藤森理事**：前事務局から報告。決算書については梅原監事に監査を受けた。

総会・理事開催について、学会の年1回の総会は平成28年10月1日に立正大学の品川キャンパスにて。理事会は第1回が28年4月25日、淑徳大学池袋サテライトキャンパス、第2回は9

月30日、立正大学品川キャンパスにて開催。内容につきましてはニュースレター等でご報告しているとおり。

事業報告について、年報刊行事業、47号は諸般の事情により大会開催時には間に合わなかったが、28年度版を刊行した。3月31日に物が出来上がり、4月1日の発送作業になってしまったが、一応ここまでを前事務局の業務とさせていただきます。一応、年度内に行えたということをご了解いただきたい。

研究助成事業について、『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会の開催は28年の3月30日、西部地域で吉村会員を講師として開催した。以降、勉強会の中身等について担当の先生とご相談していたが、諸般の事情により28年度は開催することができなかった。勉強会を継続していくために中身をどのようにしていくのかについては、新事務局体制の中でご意見等いただきたい。

学会賞について、第6回学会賞が27年1月1日から29年の12月31日までとなっている。前年につきましては具体的な推薦はなかったが、今年度については是非お声掛けをして候補を挙げていただきたい。

第50回大会・学術大会開催については、10月1日・2日、50周年記念の大会を立正大学品川キャンパスを会場として、大会校の先生方をはじめ各関係の皆さまの協力の下に実施することができた。

広報事業については、予定どおり年2回のニュースレターを発行し、またホームページの維持管理も行っている。

研究事業については、まず仏教ソーシャルワーク研究プロジェクトを石川理事が担当で取りまとめていただき、大正大学でおとりになられていた基盤研究C「わが国におけるソーシャルワーク価値の基礎的研究」の終了とその報告をもって、一旦の区切りとすることができた。

「仏教社会福祉学研究史」については前理事の谷山理事が担当で目次案まで作っていただきました。中身についてはさらに検討を要するというので、その報告も含めて継続的な検討と行なうこととなっている。

東日本大震災対応プロジェクトについては藤森が取りまとめ、淑徳大学で受けている私立大学戦略的研究基盤形成事業の一環として継続的に行った。

理事選出選挙については、鷺見会員に選挙管理委員長をお引き受けいただき、当初の予定どおり行うことができた。

特別事業については、(1) 仏教社会福祉学会の50周年記念事業委員会。50周年記念誌は担当の清水理事を始めとして委員の皆様、執筆の皆様のご尽力によって、予定どおり51回大会に合わせて配布することができた。資料編については若干遅れており、29年度中の完成を目指して継続して行っている。(2) シンポジウム「吉田久一の歴史研究を問う—社会福祉史と近代仏教史の立場から」については、社会事業史学会・日本近代仏教史研究会と本学会の3学会共催シンポジウムの形で11月12日に淑徳大学千葉キャンパスにて開催することができた。

学会事業の担当については、新しい理事役員体制の中で去年の担当・中身等をご利用いただきたい。

以上の事業報告に基づいて予算を執行した。前年度の繰越金は、経費を切り詰めた結果、一応決算額は145万3252円という形で繰り越しを受けた。個人会員の会費については182口で145万6000円。若干予算額より低い金額となっている。団体会員については23口×3万円で69万円。退会等もあり1口減っている。

雑収入がゼロということについて、年度末に不二出版から年報売り上げの繰り上げ金の一部を入金していただいているが、今回は間に合わず、出納帳を閉めるにあたって確認できなかったことでゼロ円ということ承認をした。したがって予算額237万9000円に対して決算額は359万9256円ということで収入を確定した。支出の部については、大会助成費につきましては予算どおり40万円を支出している。年報刊行費につきましては予算額100万円に対して59万5080円。これは投稿論文が通常よりも少ないページ数で刊行せざるを得なかったといういきさつがある。

研究費については、今年度の勉強会は行われなかったが、28年3月30日に西部地区で行った勉強会の資料代ということで1万円の謝金を払った。その領収の処理が年度内に間に合わなかった関係で、今年度扱いということで処理をした。

会議費については2万円の予算のところを1万2603円で、理事会等の会議費等で処理をした。

交通費については、20万の予算額に対して10万9180円。今回の理事会等の交通費等を含めている。

通信運搬費については、予算額10万のところを15万1576円と大幅に予算額をオーバーしている。一つは「メール便」を我々レベルの団

体では使用できなくなってしまったことがある。すると最低でも140円から、物によってはさらに上乘せになるということで、当初の見込みより1通の金額が高くかかる。また選挙の通知を別口で送る関係で上乘せになる。さらに、今回は事務局の移動があり、過年度分の年報など合計が四十箱近くあり、結果、宅配代が3万を超えたといういきさつ等があった。

事務費については、3万円の予算に対して1万1337円。文具・消耗品やプリンターのインク代等として利用した。

謝金については、予算どおり36万円を執行した。雑費については振込手数料ということで5000円に対して648円。

学会賞は今年度はなかったのゼロ円。

学術会議分担金は予算額2万円に対して決算は3万円。これは分担の目安は会員100名に対して1万円ということで、本学会は200人をちょっと超えていますので分担金は3万ということで請求が来ている。

ホームページ維持費については、予算額に対して一見多い6万4800円。昨年度お話ししたとおり、ホームページの維持管理を委託している国際文献社から昨年度内に請求をいただけなかったため、今年2年分を払うということで倍の金額になっている。

理事選出選挙事務については予算5万円に対して3万円を執行している。開票作業等での選挙管理委員の方々にそれぞれ謝金を出した。予備費については5000円を取っていますが、特に使いませんでしたのでゼロ円。

以上のような支出があり、予算額232万円のところ決算額は177万5224円。

収支の計では、収入計が予算額237万9000円のところ決算は359万9256円、支出計は予算額232万円のところ決算額は177万5224円。次年度繰越金につきましては182万4032円を平成29年度に繰り越したいということで、この金額につきましては貯金と現金合わせて午前中のうちに新事務局と確認し、この件について先ほど監査を受けた。

**議長：**何かご意見は

**長谷川理事：**シンポジウム「吉田久一の歴史研究を問う」は大変好評であった。今年、是非2回目を開催したいということで、拠点である淑徳大学千葉キャンパスを調整している。特に戦前・戦中含め、主として東北アジアの植民地社会事業の問題は、若手の研究者を中心に深められているようであり、本学会としても、もしそこに切り結ぶこととなれば、今

後検討していくべきことである。

また、年報は学会の生命のようなものであるから、中身についてもボリュームについてもその充実を図る意味で、会員の投稿の促進を含め、積極的に書いてもらう方策を考えなければならない。

もう一つは研究助成事業に入っている、『仏教社会福祉入門』を素材とした勉強会について。研究史や仏教ソーシャルワーク関係の研究は、今、現に進んでいるので、そういうものと絡ませてもう少し勉強会の活性化につながるように考えていってはどうか。

**石川理事：**本学会は日本学術会議の会員学会であったが、現在の登録状況はどうか。

**藤森理事：**現在は社会福祉系学会連合に移行している。

**石川理事：**学術会議の方の情報が入って来なくなる可能性があるのでは、どういふふうになっているのかも一度整理しておく必要がある。

また、外部的な評価という面からは、研究が載っていない学会誌はあり得ないので、1本でもなかったら理事の誰かが書く、会員頼みだけではなく、企画を組んででも書いてもらう等の方策をうたないと厳しいかもしれない。またこれは次年度のところで話した方がよいかも知れないが、本学会と淑徳大学が進めているアジアの仏教ソーシャルワーク研究プロジェクトは研究内容が表裏一体である。したがって、そういう協力関係の中で進めていくというやり方を一つ。

**議長：**事業報告、決算報告に関して他に何か。

**理事：**承認

### 第3号議案：今後の学会及び理事・役員の役割分担について

**議長：**事務局については、立正大学の団体理事である三友先生には本日もお越しいただいているが、大学のほうが定年になりましたので、三友先生は交代をさせていただきたい。吉村会員が本年度から社会福祉学部の特任講師となりましたので、吉村会員に団体理事、かつ事務局長も兼任してもらおうということにさせていただきたい。

年報編集については、龍谷大学の栗田理事を中心に年報編集が進んでいる。

年次大会については、大会での研究発表が少ないということも考えた上で、大会のあり方を検討した方がいいのではないかと。例えばお寺さんなどで具体的に社会的活動をされている方々も、日曜日の午前中だと法務があり、なかなか発表しにくいという現実がある。そ

ここで、土曜日の午前・午後で1日開催とすることや、実践部会を作って3部会とし、実践部会はポスターセッション、という案もある。会場に関しても、大学事務局の出勤体制があったりして、日曜や祭日は大学が使いにくいということがある。そこで、例えば本山や宗務庁のホールなど、地の利がよい場所を検討するなどはどうか。こうした内容について、新事務局で預からせていただきたい。

学習会については、大会は年に一度で東西に飛ぶので、東と西に分かれて勉強会をするのは会員の参加意欲を高めるためにも充分意義がある。

研究プロジェクトについては、まだ継続しているところなので、藤森先生を担当理事にしてこのまま継続させていただくことが必要だと思う。また、仏教ソーシャルワークと仏教社会福祉学の研究史をどうするのかを今後考えていかななくてはいけないというところで、そこについてはもう一段考えさせていただき、専門書の編集・刊行に結び付けるということが必要であろう。また、東日本震災対応プロジェクトについては、藤森理事を担当としてやっていただくことになる。アジアに関しては、石川先生どうぞ。

**石川理事：**将来的なことを考えると、仏教ソーシャルワーク研究はやはりアジアを視野に入れた研究をしないと広がりがないと思う。ご存知のように、ソーシャルワークのグローバル定義とリージョナル定義、それからナショナル定義と、こういうように順番に出て来ておりますが、仏教文化を踏まえたところのソーシャルワークというのは誰も言ってませんので、そういうところでアジアの人達と一緒に研究する窓口は、やはり本学会がなるべきかなと思っている。

淑徳大学が文科省の研究費を頂戴しているというところで、一緒にやっていくというようなことを考えていく必要があるのではないか。日本の研究と比較しなければいけないというところがなかなか十分にできていないように思う。今はアジアの研究者の方の報告が中心で、藤森先生に調整をしていただいています。そうした時に、次の段階で議論をしていくことになると思う。ですから、若い、今後日本の仏教ソーシャルワークを作るというエネルギーを持った方々が関与していくような研究会を進めていくということを少し意図して声をかけて進めたらどうでしょうか。

つまり、ソーシャルワーク研究者でも仏教に関心を持っている人がいると思う。ソーシャ

ルワーク学会は、キリスト教ソーシャルワークですべてやってるとは思えない。そういうようなことを考えて呼び掛けて進めていく。年代の差があると声を掛けづらいので、若手の人達でこういうふうに関わり合ってそういうプロジェクトを作れるといいんじゃないかなと思っている。具体には大正大学の新保理事にやってもらいたい。忙しいのでなかなか快くは返事をしてないが、今までやってきた経緯があるので、プロジェクト委員長になってもらって、あの世代の人達が関与していくというやり方が取れないものだろうかと考えている。

**長谷川理事：**淑徳大学でやっているところと本学会がタイアップしてやれるようにというのは非常によいと思う。私の見るところ、どちらかというところ、淑徳大学はアジアに軸足を置いてやっている。本学会や大正大学は日本に軸足を置いている。ここのすれ違いをもう少し何か話せていくようなやり方がないものか。そういう意味では是非、今、藤森理事がそのど真ん中にいるので、そういう意味でも今後、出口が見えてくるといいと思う。

それとは別に、先ほどの清水代表理事のご提案で、今の閉塞状況を打開していくためには新しい血を入れるというか、いろんなこともやっていく必要がある。何より重要なのは、実践者をいかに取り込んでいくか。実践者のあり様をもう少しクローズアップしてやっていく必要があると思う。それは寺院であったり、施設等の事業体であったり様々ですけれども、そういう中でまた会員に引っ張り込んでいくこともあっていいと思うので、是非これから進めていく必要がある。

もう一つはそれと密接に関わると思うんですけども、上座部を中心としたアジアの場合には、どちらかと言うと日本のように宗派仏教で縦割りになっているという、そういう感じはあまりない。そういう意味で日本の仏教と言う場合も、通仏教とか仏教一般というだけでなく、それぞれの宗派、教団の仏教社会福祉と言えりような、それぞれの宗派の宗学とか教学とかいうものの裏付けを含めながら検討していく必要があるのではないか。お互いに学び合う、私で言えば浄土宗が中心になりますけれども、そういうのを、いろんな宗派の話を聞きたい。かつてそういうことをやっていたことがあります。あれからだいぶ年数もたっているのだから、そういったことも含めてやってはどうか。

**議長：**50周年記念事業の文献目録について。

去年、大体これだけ集まっており、CDに焼ける段まで来ているが、ウェブ上で検索ができるシステムにしたほうがいいのか、というお話を伺っている。インターネット上にその文献サイトを置いておいて、会員はIDとパスワードで入るようにする。そこで検索ができるし、申し出ていただければ随時データを足していくことができる。その後の更新もできるので、今後も使いやすくなるとのこと。

学会の会員を増やすという点から考えると、いろんなところでこのサイトが見れる。例えば団体会員もIDとパスワードを持っていれば団体会員の関連の社会事業系のところの人達もご覧になる。そうすると、やっぱり本学会に対して目が向いてくるのではないかとというようなこともあろうかと思う。

金額の目安がはっきりしてないが、お金をかけて業者で構築してもらおうという形が取れないかと言われていました。それでやっていいということであれば、池上理事に進めていただく。経費の問題は、CDに焼く経費であれば概ね15万ぐらいを藤森先生の了解の下でお預かりしている。そのお金だけでは足りないので、そうすると補正を組む必要があるというところもありますので、その金額がはっきりしないとゴーサインは出せないと思うのですが、ランニングコストであまり負担をかけないような形でいきたいとは思っている。

池上先生をご担当にして、文献目録のデータベースを構築するというのを50周年記念事業の後処理としてお認めいただければ、それを今年度中に方向性を決めるということでもよろしいでしょうか。それでいいということであれば、秋にはデモンストレーションができそうなので。お金の話は事務局で、可能かどうか含めお預かりさせていただきたい。

**石川理事**：キーワードですぐ拾えるというのはとても重要。きっとこの学会の関連論文はデータ化されてなかったでしょうから、とても研究がこれから進むと思う。そうした時に、情報伝達の仕組みをもっと電子化して、情報がすぐに流れるような形を取ったほうがいいと思う。会員のメールアドレスは大体どなたも今は書いておられますよね。

**事務局**：会員のメールアドレスは、理事の方も含めて、変更その他の理由で3分の2くらいしか分かっていないイメージがある。

**石川理事**：ですから、相当力を入れてやらないと、本学会はIT化できない。

**議長**：そうしたことも含め、事務局で対応さ

せていただく。他に何か。

**山口理事**：私が入会した時に比べ、会員数は減っているのに役員数は変わらず、役員が1割以上になっている。3年間の間に組織の再編成を考えないと。監事として決算ごとをいろいろ見て、会員の数に合わせた役員とか収入だとかっていうことをやるべきだと思う。それについて小委員会でも作ってやった方がいいのではないかと。監査の立場として。

**議長**：秋の理事会には方向性をご提案できればと思う。では、第3号議案についてはいかがでしょうか。

**理事**：承認

#### 第4号議案：平成29年度 第52回大会について

**議長**：平成29年度 第52回大会について

**宮城理事**：大会テーマ「社会福祉法以後の課題と仏教社会福祉」2000年に公布された社会福祉法が十数年を経過した中でどういう課題があり、それに対して仏教社会福祉はどう関わるべきなのかという。これは、50周年の歴史を執筆して、現行社会福祉制度に対する批判的な視点というのを仏教社会福祉は持つべきだという西光先生のお言葉を考えてみたいということと、やっぱり現場とどうリンクするかということに大きな課題があるのではないかとということで、このようなテーマとした。

記念講演：大本山中山寺長老 村主康瑞 先生

基調講演：宝山寺福祉事業団理事長 辻村泰範 先生

シンポジウム

【地域福祉の立場から】

種智院大学 明石隆行 先生

【障害者福祉の立場から】

龍谷大学 村井龍治 先生

【教団の立場から】

真言宗善通寺派宗務総長・

社会福祉法人弘善会理事長 菅智潤 先生

コメンテータ：龍谷大学 長上深雪 先生

司会・進行：種智院大学 佐伯俊源 先生

一応7月末までに申し込みをいただいて、振込票を同封しておきますので参加費のお申し込みで受け付けということにしたい。

**議長**：何かあれば

**石川理事**：大変タイムリーなトピックスのテーマだと思います。せっかくですので近所の仏教系の施設運営者にお声を掛けて来ていただくと、きっとフロアからもいろんな意見が出る

かなと思うんですが、京都はどこに投げれば  
そういうのが伝わるのでしょうか。

**野田理事**：宗教記者クラブのようところに  
働きかけてニュースで出してもらうのが一番  
いいと思います。

**議長**：宮城先生が記者会見、野田先生が司会  
ということ。

**石川理事**：是非、野田先生にご協力を。

**議長**：では、第4号議案については。

**理事**：承認

////////////////////////////////////  
**第5号議案：平成30年度 第53回大会について**

**議長**：平成30年度 第53回大会について。  
第53回大会は身延山大学でお引き受けできる  
ということを池上理事よりご了解をいただい  
ております。

**理事**：承認

**その他**

**議長**：何かあればよろしいでしょうか。

**事務局**：特に無し。

////////////////////////////////////  
**3. 報告事項**

**議長**：報告事項に移らせていただきます。50  
周年事業について、文献目録の件につきまし  
てはウェブ化という方向で金額を調べさせて  
いただき、またおはかりをしたい。

**藤森理事**：年報編集委員会・査読委員会で栗  
田先生と小笠原先生が連名で出されている。4  
8号に向けて今、引き継ぎをされながらお二人  
で進めている。新規の点としては、事例研究  
の投稿についてなんらかの対応を考える必要  
がある、と前年度編集委員会で話し合われた。  
具体的な対応策、検証などについてはさらに  
1年後かなと考えている。47号も、投稿がゼ  
ロだったわけではなく、投稿があったが査読  
でチェックされた結果、今回は取り下げる・  
事例報告という形で上げてきたのですが、事  
例報告で査読はなしにしても、いろいろ内容  
や研究方法についてちょっと掲載に至らない  
のでは、というやり取りがあった。そのルー  
ル化を詰めていく必要がある。  
また、別紙で「第2回国際学術フォーラムお  
よびフォーラムプラスについて」というのが  
あります。これは先ほどのアジアの国際ソー  
シャルワークについて報告したもので、『仏  
教タイムズ』にも取り上げていただきました。  
それから、国内の調査について何度か宣伝を  
していただく、時間かかってしまったんです

が、「仏教社会的実践活動プラットフォーム」  
というものを3月に開設しました。「詳しく  
は仏教社会福祉実践プラットフォームで検索」  
とありますが、はじめはアドレス (<https://bukkyoplatform.com/>) を具体的に入れていた  
だいて見ていただければと思います。

**議長**：今日出たようなご意見は事務局に、こ  
ちらで原案を作れるもの、または方向性で組  
上に載せられるものを作れるものは作らせて  
いただいて、秋、9月8日に理事会が予定さ  
れますので、その理事会のところでおはかり  
をさせていただきたい。それまでの間、それ  
ぞれのプロジェクトのところではまたお進め  
をいただいて、問題点、課題点あればお送り  
くださればと思う次第です。では、また今後  
3年間、どうぞよろしくお願いたします。  
ありがとうございました。

**閉会**



(文責：事務局)

////////////////////////////////////  
**平成29年度第1回理事・役員会  
事業・委員会報告**

第1回理事・役員会で報告のあった、事業・  
委員会の報告の詳細についてご案内いたしま  
す。

**1. 年報編集委員会・査読委員会**  
(栗田修司・小笠原慶彰)

1)平成28年度 活動報告

- ①『年報』47号の発行
- ②年報編集委員会の開催（平成28年10月2日、  
於：立正大学品川キャンパス）
- ③『年報』48号発行にむけての編集作業
- ④次期編集担当理事への業務引き継ぎ

2)平成29年度 事業・活動予定

- ①『年報』48号発行にむけての編集作業と  
発行
- ②年報編集委員会の開催（平成29年9月10日  
予定、於：種智院大学）

- ③『年報』48号に向けての編集方針の立案
  - ・応募に関して
  - ・依頼原稿に関して
- ④『年報』49号発行にむけての編集作業
- ⑤査読委員の新規依頼・継続依頼について検討
- ⑥論文執筆のためのサポート体制についての検討(新規)
  - ・特に事例研究(実践報告)の研究報告、論文作成方法に関して

### 3)備考

- ・『年報』48号の編集に関しては、学会事務局と協働しながら進行中。
- ・編集委員会としては、査読依頼(論文2本)を行った。他に実践報告1本に対応中。
- ・図書紹介は、坂井祐円(2015)『仏教からケアを考える』法蔵館.を同朋大学の目黒達哉先生に依頼中。
- ・記念講演・シンポジウムはテープ起こしが終了し、校正依頼中。
- ・新しい編集委員に清水隆則会員(龍谷大学)を推薦。

## 2. 仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト (石川到覚)

### 1)平成28年度 活動報告

本研究事業のプロジェクトは、平成25年度から3カ年の文部科学研究費助成「基盤研究C(一般)研究課題『わが国におけるソーシャルワーク価値の基礎的研究—仏教者の実践を通して—』(研究代表者:新保祐光)」で進め、平成26年度に本学会員の全数アンケート調査を実施して示唆に富む回答を得た。その結果を平成27年度の第50回大会で報告した。それと並行して東南アジア諸国の内、中国(上海・杭州市)や台湾(台北市)及びタイ等の仏教寺院等へのフィールド調査を重ね、平成28年度は引き続きタイ仏教寺院が実践する精神保健福祉活動への再調査を実施した。平成28年度もアジア型ソーシャルワークにおける仏教の役割や特徴を見出す試みとして中国上海・杭州市の仏教寺院調査とともに、華東師範大学と本学会団体理事校の大正大学との研究交流を進めてきた。

なお、グローバルなソーシャルワークと仏教ソーシャルワークの概念比較では、先の学会員の全数調査の再分析を試み、仏教ソーシャルワークの概念化の課題を検討した。それらの研究成果は、平成28年度の本学会第51回大会で新保祐光会員が報告した後、平成29年度

に刊行予定の本学会年報に投稿しているところである。

### 2)平成29年度 事業・活動予定

本研究事業の研究経費(文部科学研究費助成)の執行は平成27年度で終了したが、本研究事業を継承すべく、淑徳大学の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究」への研究協力をもって、その継続研究に伴う体制づくりの再編成を検討する。

なお今後、本学会員で地域ベースの幅広いソーシャルワーク領域の研究者も加えたアジア仏教ソーシャルワークの検討とともに、引き続き日本仏教ソーシャルワーク研究の深化に向けて進めていく。

### 3)備考

本研究プロジェクトは平成28年度を区切りとし、平成29年度からは上欄に示した淑徳大学の総合的研究への研究協力などの研究体制づくりによって当初の目的を達成するよう引き続き検討する。

## 第2回 国際学術フォーラムおよび フォーラム・プラスについて

### 1 概要

第2回淑徳大学国際学術フォーラム「仏教ソーシャルワークアジアの仏教は人びとの生活の問題にどうはたらくか」がアジア国際社会福祉研究所主催により平成29年3月22-23日の2日間にわたり千葉・三井ガーデンホテル千葉にて開催された。海外からの9カ国から19名の招聘者を招き、各国の仏教寺院が実践しているソーシャルワーク活動調査について報告された。本報告は平成28年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の一環として実施された調査の中間報告をなすものである。

### 2 出席者

海外からはブータン・カンボジア・ラオス・モンゴル・ミャンマー・ネパール・スリランカ・タイ・ベトナム(国名アルファベット順)から19名が参加し、国内からはプログラム研究員及び学外の希望者が2日間で述べ31名のほか、マスコミ関係者4名(中外日報、仏教タイムス、フリーランス・ライター、カメラマン)の参加があった。なおスリランカからの招聘者については、フォーラム閉会後の24日、千葉キャンパスにて開催されたプラクティス・ベイスト・リサーチ(PBR)プロジェクトの最終報告会(フォー



ラム・プラス)にも参加した。

### 3 成果

本フォーラムの主たる目的は次の2点、すなわち、①本研究所が各国調査チームに対し平成28年度末に提出を求めている最終報告書の進捗の確認、及び②仏教ソーシャルワークのワーキング・フレームワークの検討、でありいずれも達成できた。

フォーラム開催にあたって各調査チームに対して20分のプレゼンテーションとプレゼンテーションの要約の提出を求め、発表資料(パワーポイント)については全て日本語に翻訳し英文資料とともに会場にて配布された。これらの資料と、母国語による発表者については通訳を自国から帯同したことにより、各参加者は言葉の壁を越えての活発な意見交換が実現した。

また、22日夕方の記者会見において参加者らにより「アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワーク」結成が宣言された。本プロジェクトを通じて交流が始まった研究者・参加者がフォーラムという場で一堂に会することにより情報交換の重要性をそれぞれが再認識し、国際会議の共同開催や人材交流、更なる共同研究の提案が交わされた。各参加者は人材交流や情報の共有などの面で、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所がハブとして機能することにより本ネットワークの活性化が図られるとし、本研究所の今後の活動へ大きな期待を寄せていた。

#### 「仏教社会的実践活動プラットフォーム」について

仏教社会的実践活動プラットフォームは、宗派教団の垣根を越えた情報共有や交流の「場」づくりを目的としたプラットフォームです。

「仏教では、生きとし生けるものを慈しみ、さまざまなご縁によって生かされていることを感謝し、他に奉仕することを説いております。日本においても、このお釈迦様の教えを実践する数多くの団体が、多岐にわたる社会活動、支援活動をされています。

しかし、これまでその宗派教団の垣根を越えた、インターネット上のネットワークは、残念ながら存在しておりませんでした。

そこで、地域社会の中で日頃から行われている仏教関係団体の社会的実践活動とその記録を一堂に集めてご紹介し、お互いに情報交換や情報共有をして、ゆるやかな連帯・協働をはかるご縁となる「場」を提供することで、活動のより一層の活性化や社会への認

知を図るとともに、一般の利用者の方々に對しては、身近なサービス情報やボランティア情報を得ることのできるプラットフォームを構築することを考えました。

私達は阪神淡路大震災、東日本大震災をはじめとする未曾有の災害も体験して参りました。

日頃から緩やかなつながりを持つこうした社会基盤こそ、将来、緊急災害時にも必ずやお役にたてるものと確信します。

もちろん仏教徒ではない団体や公的機関もご参加、ご活用できます。また、信仰を問わず、どなたでもご利用できます。幅広い層の方々にご利用いただき、ご縁を支え、ご縁を広げるプラットフォームとなることを願ってやみません。平成29年3月」

運営主体：淑徳大学アジア国際社会福祉研究所  
アジア仏教社会福祉学術交流センター  
<https://bukkyoplatform.com/>

#### 日本社会福祉系学会連合 2017年度 総会

開催日時：2017年5月28日(日) 17:10~17:50  
開催場所：明治学院大学 白金キャンパス  
本館3階1310教室

#### 審議事項

1. 運営委員の交代について
2. 2016年度事業報告について
3. 2016年度決算および監査報告について
4. 新入会希望団体について
5. 補助金制度について
6. 2017年度事業計画について
7. 2017年度予算について
8. その他

#### 報告事項

1. 加盟学会の平成29年度の活動予定のホームページ掲載
2. 災害福祉アーカイブについて
3. その他

2017年度の運営委員は以下の9名です。

会長 黒木保博 (日本社会福祉学会)  
事務局長・学術会議担当 湯澤直美 (日本社会福祉学会)  
庶務担当 後藤広史 (日本社会福祉学会)  
広報担当 小櫃俊介 (日本社会福祉学会)  
会計担当 渡辺裕一 (日本地域福祉学会)  
研究担当 小林良子 (日本司法福祉学会)

研究担当 高野和良（日本社会分析学会）  
 研究担当 志賀利一（日本職業リハビリテーション学会）  
 幹事 田中英樹（日本精神障害者リハビリテーション学会）

### 『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会

本学会編のテキストを活用した勉強会が、毎年、関東地区・関西地区の2か所で開催されています。関西地区については8月3日、龍谷大学にて開催予定です。関東地区についても、予定が決まり次第、事務局よりご案内申し上げます。ふるってご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

日時 8月3日（木）16時より

テーマ 医療と福祉におけるエンゲージドブディズム

講師 木下克俊（臨床宗教師）

※詳細は別紙のご案内をご覧ください。

### 『日本仏教社会福祉学会年報』

#### 投稿論文の募集

#### ※投稿規定

- (1) 本誌に発表する論文等は、未発表のものに限る。
- (2) 投稿の種類は、研究論文・研究ノート・実践報告・海外情報・資料紹介・書評・その他とし、掲載ジャンルは編集委員会において決定する。
- (3) 本誌の原稿枚数は、原則として研究論文は20,000字以内、その他は16,000字以内とし、縦書き・横書きとする。
- (4) 投稿は自由投稿および依頼投稿とし、自由投稿の締め切りは毎年1月末日とする。
- (5) 投稿に際しては、印刷原稿3部を学会事務局へ提出する。学会事務局は、提出が確認された後、投稿者へ「受付証」を発行する。
- (6) 執筆上の細目は原則、次の通りとする。
  - ① 論題名、執筆者名、所属を明記し、論題名と執筆者名には欧文を添付する。
  - ② 本文は常用漢字、現代かなづかいを使用する。
  - ③ 長文の出典引用の場合は、二字下げて記述する。引用・参考文献の明記については、本文中に脚注番号を付し、本文の最後にまとめて列挙する。
  - ④ 引用・参考文献の記述は、脚注番号、編・著者名、書名または論文名、所収書名また巻・号、発行所、発行年、ページの順とする。
  - ⑤ 図表については、掲載順に番号と題名を付

し、掲載箇所に添付する。

(7) 執筆者が抜刷を希望する場合は、実費とする。ただし、「基調講演」、「シンポジウム」等の学会より依頼した執筆者には、1編につき抜刷30部を贈呈する。

※投稿希望の会員は、事務局までご一報ください。宜しくお願い致します。

#### 事務局 編集後記

本年度より、事務局が立正大学へと移りました。事務局として不慣れな点多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

本ニューズレターの発行が諸事情により大変遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。

さて、理事・役員会で審議・報告されたように、本学会がますます発展・円熟していくためには、継続的に取り組んでいかなければならない課題が山積しています。また対外的にも、本学会の存在が学術界においても、実践のフィールドにおいても、そして一般社会においても、その意義を示し、役割を十分に果せるように尽力していきたいと思ひます。そのためにも、会員各位のお智慧をお借りすることができればと思ひます。

末筆になりましたが、会員各位のますますのご健勝をお祈り申し上げます。